

延永 五月十五日



長官

副官



訓長



訓令



陸軍少将 赤松 裁判所 上申 通
軍部 改定 赤松 裁判所 上申 決
定 赤松 裁判所 上申

赤松 裁判所 上申 決
定 赤松 裁判所 上申
赤松 裁判所 上申 決
定 赤松 裁判所 上申

十人考十人 長官

天津政定所 掛範

1755

所賣書第百六

社

五ノ十

常律經改集也末了因之義分中
蜀人軍為盜犯蜀律盜賊
得之祿儿毛ノ義常律賊盜賊
依り四罪名ヲ擬定するにモノ
改法とい義軍律中一正案第
引據スル中律多中一西武方
又其ノ背新律經改集物
主改定律所第五十一條より
其五十八條と云ル者其也附
主共一切引自西武方取し
其の中一本案第力一正案
往入方千九百九号

三十七

西武方

1756

追徴法

又法御用儀定せし所ノ改訂力得
追徴法ヨリハ得共軍人及
戸主追徴法ヨリハ得共引用難及
原モヨリハ得共更ニハ得共
通リ追徴法ヨリハ得共
心及ハ得共ハ得共
以上申上ル

追徴法

明治十一年五月廿四日
海軍中務省御旨
海軍大務司村純義殿



軍人軍房の盜旅資カ限追徴法

第一項 盜犯海軍一各種ノ生徒及下士
以下管轄黄令告果と第ナ在スルモノヤル
中ハ其管轄黄令告ニ於テ本犯取
ル衣類物品金錢等資カノアル限
ヲ追徴テ官私ニ還給ス

但該盜犯一家ノ戸主とクハ戸主ナラガ
ルモ所リ財産ノ追徴スヘキモノアルハ之ヲ追徴ス
第二項 盜犯第一項ニ属セサル軍人軍房
ニテ傳官徒以上ニ依ルモノハ本犯並
服書アリノ衣類莊具方物等除ク外
資カノアル限ヲ追徴シ其戒役以下ニ依

ルモハ尚奉托ス服帽靴佩釵簪
器上ニ案モ欠リ可カラサル
外資カノアル限リヲ追ス